

主体的に算数を活用しより豊かな生活を創造していくこととする力 (自力:生涯学力)

生き生きと取り組む姿

算数, ておもしろい, 楽しい

学習ステップと子どもの姿

気づき・感じる (目あての設定)

- ・疑問・感動 (非認議)(美)
- ・意外性

考える・想像する・工夫する

- ・直観力 (自力解決)
- ・イメージ
- ・既習事項
- ・情報活用
- ・問題の構造把握
- ・独創性

表現・実践 (自力解決 集団解決)

- ・比較・検討
- ・自分の考えを伝えることができる

自信

ふりかえり

- ・より豊かによさを感じる (日常生活への発展)
- ・新たな疑問・感動

自己評価 相互評価

教材開発

オープンエンド 多様な解決方法 発展性のある問題

感動のある導入 (実生活, 興味関心, 必要感など)

具体的操作活動 類似問題

環境づくり (算数コーナー)

- ・本
- ・教具など

・解決方法や算数のよさに気づかせる発問の工夫

- ・ふりかえりの視点
- ・学習後のノートによる評価
- ・実態把握

支援と感性

(固定観念や常識に固守しない。幅を見方)

支持的風土

3 算 数 科

山田恵次・川上公範・松浦武人

1 算数科学習を通して育まれる「豊かな感性」

算数科の学習を通して育まれる豊かな感性とは、『「いいなあ」と感じる心』（おもしろい、不思議だ、美しいな、便利だな等の感情も含めて考える）であり、それは、ただ感じるだけにとどまらず、その後の学習に生きて働く心の力であるにとらえている。さらに、このような心の力は、主体的に算数のよさやアイデアを活用しより豊かな生活を創造していこうとする生涯を通して生きて働く力ともなるであろう。このような感性は、基本的には下図のようなステップで育っていくと考えられる。（平成5年度研究紀要「豊かな感性を育む」広島大学附属東雲小学校，1994，P 47～48に詳述）

2 豊かな感性を育む算数科の学習

豊かな感性の育成

このような感性は、「学習課題に主体的に立ち向かい、その解決に取り組む過程において、算数のよさに気づき、よさを味わい、よさをより深く感じる」算数科の学習により、育まれると考える。

（平成5年度研究紀要「豊かな感性を育む」前述 p 47～48に詳述）

さらに、昨年度の成果を踏まえ、算数科の学習のステップとして①気づき・感じる（めあて）→②考える・工夫する（自力解決）→③表現・実践する（自力・集団解決）→④振り返る（解決の振り返り）

→①気づき・感じる→というくり返しの基本的ステップを構想した。これは、1単位時間のステップであると同時に①から④の各段階でのステップでもあるし、また、1単位時間以上あるいは、単元レベルでのステップとしても考えられる。

(1) 各学習ステップでのめざす子ども像と教師の支援

① 気づき・感じる（学習のめあてづくりの場）

子ども達が、ある事象に対じたとき、自ら気づき・感じたりすること（驚き、疑問、感動、意外性等）を通して、主体的なめあて意識が生じ、問題解決活動へと取り組んでいくようになるであろう。

このようなめあてづくりの場となるように、実生活や既習事項との関連より問題化したり、多様な解決方法、発展性のある問題、オープンエンドな問題、また、興味・関心、必要感の関連からなど、教材開発と感動ある導入を構想していく必要がある。また、既習の学習課題との類似・相違を明らかにしていくことも大切である。

② 考え・創造する・工夫する（自力解決の場）

既習事項を振り返ったり、直観を働かせたりして結果や解決方法に見通しをもって取り組み、何よりもまずは、自力で自分なりの考えがもてる子どもを育てたい。

そのために、以下のような考えをもつための場の設定と環境づくりをする。

・類似問題を想起させたり、具体的操作活動を取り入れる。



